

勝山まちなか ストリートフェス 開催!

勝ち山夏物語のラストを飾る、音楽イベント「ダイノソニック」と同時に、まちなかストリートフェスを開催します。

いろんな催しがあります。ぜひご来場ください。

日時：8月24日(土)
歩行者天国 午前10時～午後9時30分頃

会場：中央公園周辺
市民会館～教育会館～サンプラザ

入場無料

※ダイノソニック(市民会館)は
チケット(有料)が必要です



DINOSONICステージ

東京女子流、ダンスロイド、アーレンギルドなど勝山の大使を含めた6組のアーティストが、1部と2部に分かれてライブを行います。

<http://www.dinosonic.jp>

遊舞っさステージ

9回目の今年は、ストリートフェスに合わせて開催。県外からも挑戦者がやってくるほど恒例になったダンスバトル&コンテスト。決勝は野外ステージで!

<http://asobossa9jindo.com/>

野外ステージ

左義長こどもばやし、スタードラフト会議2連覇の「九州男児 新鮮組」ダンスステージ、勝山から発信するファッションショーなど、若者が企画出演するステージです。

九州男児 新鮮組

ふれあいグラウンド

ちょっと非日常との触れ合いをテーマにしたコーナー。「ヤギとふれあい」コーナーや、福井からリーグ入りを目指すサウルコス福井の選手によるサッカー教室を開催します。

まちなかストリート

歩行者天国にして、オープンカフェやストリートパフォーマンスができるスペースになります。2オから乗れるキックバック「ストライダー」の乗車体験、タイのタクシーでよてよ(トクトゥク)のパレードなど企画しています。

うまいもんスポット

勝山の美味しいものを販売するコーナー。恐竜サイコロステーキ、生ビール、ジェラートなど夏向けのフードコートです。

ダイノソニックコラム

◆夏フェスセまる!
ダイノソニックがいよいよ近づいてきました。

勝山市で初めての夏フェスに、僕自身期待と興奮で毎日過ごしています。音楽とダンスとお祭りのコラボ、どんなフェスになるのか想像がつかないまま当日を心待ちにしています。

「恐竜サイコロステーキ」や「勝ち山ほっかけ」などの勝山のうまいもんも登場しますし、サウルコス福井によるサッカー教室も中央公園で行われます。多数の有名アーティストの出演もあり、プロダンサーによるダンスバトルもあります。ブレイクダンスキッズ世界一の「九州男児 新鮮組」もやってきます。

勝山で、これだけ大きな規模のお祭りができることが僕は嬉しいです。

個人ではなんの力もありませんが、いろんな皆さんと協力することで、大きなイベントにしてこれたと思います。

夏の暑さに負けないくらいに家族と、友達と、恋人と、勝山のお祭りを楽しみましょう!

ダイノソニック実行委員会
代表 中村 剛

みんなで守り、育てよう勝山市の医療!

～小児科医の立場から～

第10回 インタビュー

■最近の子育て状況

最近はいクメンといわれる父親の子育て参加が増えていますが、祖父も子育てに参加し、イクメンならぬイクジイも増えていきます。まさに家族みんなで子育てしているという印象があります。最近では、母親に心のゆとりがないように思うので、なおさら家族が母親をサポートすることが大切です。

■子どもの病気

ほとんどの子どもが保育園などでインフルエンザなどその季節に流行する感染症にかかります。後1〜2日お休みすると全快すると思われる子どもも、親の休みが取れずに通園するため、他の子にうつしたり、その子自身の病気が長引いています。病気の時に親が看ることで、子どもの心の安定が得られ、免疫力が高まり早く治るようになります。親が休むためには、職場や周りの人の理解が必要だと思います。



河北小児科医院
河北美紀子 院長

■早めの受診を

子どもの病気はなんといっても「早めの受診」です。こじれる前に受診することが大事です。最近では休日に気軽に受診できるようになったため、悪化してから受診することが増えています。

■他機関との連携

休日に病気になる時は、福井県子ども急患センターや大野市休日急患センターの受診を勧めています。入院が必要なときは親の意向を聞きながら、軽い場合は福井社会保険病院や福井愛育病院を、専門的な検査が必要なときは福井大学医学部附属病院などを紹介しています。

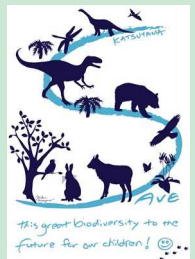
■子どもたちからパワーをもらう

勝山に来て30年、健診・予防接種や診療を通じて勝山のほとんどの子どもたちを見てきました。その子どもが親になり、自分の子どもを連れて受診してくれたときは本当にうれいのです。診察が済んだあと、手を振って笑顔で帰っていく子供たちを見ると小児科医をやっていることに良かったと思えます。将来を担う子どもたちが、心も体も健やかにたくましく育つよう少しお手伝いするのが小児科医の仕事です。子どもたちの笑顔からパワーをたくさんもらいますが、この仕事を続けるエネルギーになっているようです。

「勝山エコライフ」コラム

第20回 持続可能な林業について

考える



◆御存知ですか?勝山の林業
皆さんは勝山の林業にどれくらい関心をお持ちですか?勝山にはどれくらい森があつて、そのうち人工林の割合がどれくらいか言えますか?おそらく、林業に携わっている方以外には、まず答えられないでしょう。勝山の林業について本格的に学ぶ機会が、これまでほとんどなかったからです。

◆北郷小学校の取り組み

そのような状況において、北郷小学校の6年生が、勝山の林業について学び、様々な経験を積んでいます。通常は教科書で他県の林業の例を学ぶだけなのですが、それだけで終わらせるのではなく、徹底的に勝山の林業について学んでいます。森林組合の方に協力していただき、勝山の森林面積は市の全面積の8割あること、勝山の森の4割は人工林でそのほとんどがスギであり、その価格が落ちていくこと、放置されて荒れた山が増えていること、以前に比べ林業に携わる人の数が減っていることなどを学びました。

勝山の林業を学び、実際の森林を観察 生物多様性の保全へ

野外で実際に、①管理されたスギ林と放置されたスギ林の比較、②製材所で伐採された木の加工作業を見学、③谷集落のブナ林に行き、実際に勝山本来の森林の観察などを行ってきました。そのうえで、スギから本来の植生に戻す提言や、スギの間伐材を活用するアイデアを、地域の方々に発信していく予定です。自ら間伐材を使うことも検討中です。

◆これからの勝山の林業に向けて

植林された木々が使われずに放置されるだけでは、勝山の山の荒廃はさらに進んでしまいます。保水力の低下やクマの出没頻度上昇などが加速するかもしれません。木材を利用する手立て、里山の管理の復活、林業を支える人の育成が必要です。周囲を全て森に囲まれた勝山市なので、その資源を持続的に利用しながら生物多様性を保全していく道を探っていきましょう。皆さんも日々当たり前に見ている森林を、もう一度見直してみてください。